

県産材の需要と供給を一体的に創造しよう !!



題名：名人芸 撮影場所：静岡市 撮影者：岩崎恭子氏（静岡市）

INDEX

本誌はホームページでも掲載しております。是非ご覧ください。URL：<http://www.moritohito.jp>

2 **3** 事業体取材 No1
林業・地域資源・地域振興・農業・移住に関する新しい動き“伊豆半島編”

4 支部だより①
光と水と緑に輝く南伊豆町

5 県庁だより①
「静岡県の生物多様性の保全に向けた取組」

6 森林・林業研究センター No.82
鳥獣の捕獲や被害対策に関する各種の普及啓発資料を作成しました

7 **8** 本部情報

別冊折込

平成28年度しずおか森林写真コンクール入賞作品

事業体取材

● No.1

林業・地域資源・地域振興・農業・移住に関する新しい動き“伊豆半島編”

現在、県内各地で林業に新規参入する事業体や新たな経営方針で林業を行う事業体が増えています。山林協会ではそのような元気のある事業体の紹介を不定期ながら行うことにしました。今回は、伊豆半島の南伊豆町で頑張る事業体の中から「株式会社いしい林業」を取材したので報告します

社長さんの思い

この山をどうにかしなければ。伊豆の荒廃した山々を見て、そんな思いを描いたのが45歳の時。南伊豆で株式会社いしい林業という林業事業体を経営する石井静夫社長の林業人生はこの思いから始まった。

水産関係の会社勤めをしていた石井氏は、南伊豆から西伊豆へ毎日通う生活を送っていた。通勤途中では山の木々が目に入ってくる。手が付けられずに、その木がどんどん大きくなって荒れていく現状を感じ取った時、山への思いが芽生えたという。

思いを形に

地元で出会った師匠について伊豆森林組合で5年間修業。50歳になった2005年に独立して、いしい林業森林再生隊を立ち上げた。ひとり親方でスタートした当初は、障害木などの特殊伐採の仕事が多く、民家の裏山に通うことがほとんどだったという。タイミングよく翌年の2006年に森の力再生事業がスタートし、県の仕事も請け負えるようになって、山に入る機会も多くなってきた。



▲左:山口氏 中:石井社長 右:森氏

形の変化・社員の力

現在、いしい林業の社員は社長を入れて15名。2010年には株式会社に法人化し、山林協会の研修で社員の技術向上を図り、グラップル・フォワード・高密度路網の生産システムにより今年3000m³以上の生産を見込むなど林業事業体としての力をつけてきた。

社員2名が森林施業プランナーの資格を取得し伊豆の西海岸を中心に、細かな山林所有者を回りながら集約化にも力を入れている。これは、山を守っていくのと同時に、他と差別化していくためにも、重要な仕事となる。所有者に施業を提案すると、8割以上が了承してくれ、まとまった施業を行うことができるのだという。

朝6時30分、安全作業をするためにも全員で朝礼を行い、2班に分かれて施業を行う。「みんな、なかなか帰らないんだよ。」定時を過ぎても施業の計画や反省の話し合いは終わらない。仕事に情熱を注ぐ社員の姿がそこにはある。

林業+α

そんないしい林業は、ユニークな取り組みも展開している。ヤギを飼い、農業を営み、薪ストーブを販売し、ツリークライミングなど子ども向けのイベントも行っている。一見、斬新な取り組みに感じるが、それは、地域の問題を解決するための、とても自然な発想



▲こども園の園児の大好きなヤギのエサやりだということがわかった。

ヤギを飼うきっかけとなったのは、過疎化が進む南伊豆町に耕作放棄地が増えてきたからだ。手を入れられなくなった畑は草が覆い茂ってしまう。それを防ぐために何ができるかを社員で話し合い、ヤギを飼うことにした。6年前、群馬まで出かけ、5頭のヤギを購入。一時15頭まで増えたが、今は9頭のヤギが活躍している。ヤギを草地に放すと、まるで機械で草刈りをしたようにきれいに草を食べてくれる。そこで小麦やキャベツなどを栽培し、販売やイベント時のピザ用の粉としても使っている。

田んぼでは米作りを行い「けぐらの米」という名前で販売する。まさに地域の資源をうまく循環させるた



▲小学生向けツリークライミング体験会

めの事業といえる。一方で、農作物は木材と比べて手がかかり、台風などで簡単に被害が出たり、収穫適期も短く作業に追われたりするという苦労もあるようだ。



▲いしい林業のお米“けぐらの米”

また、子どもたちが森や山と出会うきっかけになればと、定期的なツリークライミングのイベントを開催している。山の中で子どもたちの笑顔ははじけ、体いっぱい体験し、山への関心も高まっていくことだろう。

南伊豆に住んで働く

そんないしい林業の面白いところは、社員の内、9名が移住者ということだ。東京・神奈川・石川・青森・埼玉と全国各地から集まっている。「どういうわけか、うちは移住者が多いんだよ。」と石井氏。

その移住者の中で、最初に入社し、石井氏の右腕にもなっているのが東京出身の森広志氏だ。サーフィンが好きで、自然と関わる仕事がしたいと考えていた森氏は、2人の子どもの生まれたことをきっかけに、28歳で家族と共に伊豆へ引っ越した。前職は運送会社のセールスドライバーをしており、実際伊豆で生活してみると、「こんな世界もあるんだ。」と時間の流れの違いに驚いたという。林業の経験を積み、森林施業プランナーの資格も取得した森氏は、伊豆の山を集約化するため、山林所有者と丁寧なやり取りを行う。山の価値や活用方法を数多く提案し、森林整備に対する意識を高めて



▲地元産材を使った「Café TeeDa」

もらおうと努めている。

また、最近では独自の活動も展開し、2013年にはNPO きこりサーファーズを立ち上げた。いしい林業と連携しながらツリークライミングのイベントを独自に行っている。また、妻の森朝子さんは2年前に地元の女性と「Café TeeDa」(カフェティーダ)というカフェを南伊豆町にオープンし、食事やスイーツを提供している。古民家を改装し、木をふんだんに使う温かみのある店内は、子育て世代のお母さんたちの憩いの場となっている。入口のカウンターはいしい林業の木材だ。

こうして、若い移住者が集うと地域が活性化する。石井氏は若者が移住しやすいように空家を手配し、片づけを社員全員で行って、安心して働ける環境を整えている。

前向きな社風

林業の世界は厳しく、今後どうやって生き残っていくのかを、いしい林業は社員全員で考えることにしている。その社風からか、社員は自分の意見を率直に言い、いしい林業を今後どうしていきたいかを口々に語る。

取材のこの日、現場には2年目の



▲搬出現場にて 左:桑原氏 右:前田氏

前田宇氏と3年目の桑原勇人氏が間伐を行っていた。林業の仕事は何でもできるようになるのが目標としつつも、林業という業種に対しての不安も語っていた。特に伊豆は輸送コストが他地域よりも高く、質の面からは木材に高値が付きにくい。伊豆の山林でどう産業としていくのか、行政とも協力しながら地域に合った林業の形を考えていくことが急務だという。桑原氏は埼玉から移住し、3人の子どものがいる。林業を続けながらその子どもたちが安心して成長して

いけるためにも、この課題を解決していかなければならない。

ぶれないモノ

石井氏が大切にしていること。社員との信頼関係、感謝の気持ち、地域貢献だ。「人間って自分一人で生きていけないよなー」と石井氏、縁があって巡り会えた社員は宝だという。今後の夢をお聞きすると、夢というよりは、この地域で課題を他人任せでなく自分たちで解決していきながら、小さなことをコツコツ積み重ねて、次の代につなげていきたい、と実直な答えが返ってきた。一段一段ステップを上がりながら、山林を未来の子どもたちへつないでいくためにも、いしい林業の挑戦は続いていく。

取材を終えて

今回の取材で、いしい林業が過疎地域で資源を活かし地域振興や人口増にも貢献し、地元からも感謝されている姿を頼もしく感じました。林業という一次産業でも、経営者や職員の思い、資源と経営能力・技術力、さらには行政の支援が噛み合えば多人数を雇用ができること、また南伊豆地域の他の事業体でも同様の成果を上げているだろうと確信しました。



▲社員全員による打ち合わせ会



▲社員の皆さん

(注)「森と人」HP版には、いしい林業さんのデータや写真をアップしています。HPをご覧ください。

⇒ <http://www.moritohito.jp>

支部だより①

光と水と緑に輝く南伊豆町

南伊豆町 地域整備課

美しい自然・温泉と県産材を利用した「南伊豆認定こども園」などの紹介を頂きました。

伊豆半島最南端の町 南伊豆町

伊豆半島の最南端に位置する南伊豆町は、天城山脈に連なる山地が広がり、町域の8割以上を山林や原野が占めています。県下で有数の温暖な気候であり、南国果実、熱帯植物などが栽培されています。

本町の東と西はそれぞれ相模灘、駿河湾に面しており、石廊崎・波勝崎を中心に特異な海岸美が造成されています。また、青野川流域にみられる平地では「下賀茂温泉」をはじめとした温泉施設があります。町営温泉である「銀の湯会館」は、昨年度3月にリニューアルし、多くの観光客に人気を集めています。



▲石廊崎の海岸

弓ヶ浜海岸

穏やかな弧を描いた弓ヶ浜の1km海岸線には、多数の松が植林され、白砂青松の海水浴場を形成しており、「日本の渚百選」や「海水浴場百選」に選ばれています。植林された松林は潮害防備の機能を持つ保安林として指定されており、後ろに控える住宅地を塩害から守っています。また、平成26年度から、水上

アトラクション施設である「スプラッシュウォーターパーク」がオープンされ、夏には多くの海水浴客でにぎわっています。



▲弓ヶ浜海岸

やニホンジカ、サルなどの有害鳥獣による被害が後を絶ちません。5年ほど前から、以前までは見られなかったニホンジカによる被害も増加しています。南伊豆町では、そういった有害鳥獣からの被害を未然に防ぐため、住民向けの講習会を開いています。また、今年度、南伊豆町が実習会場となった、静岡県主催の鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修では町民からの参加もあり、有害鳥獣被害対策に関心が高まっています。



▲鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修の様子

南伊豆認定こども園

平成23年度に建設された南伊豆認定こども園では、柱や土台などに県産材のスギやヒノキが使用されており、一部には南伊豆町産の材も使われています。この認定こども園は、園児たちが直接木に触れることで、木に親しみを持つことができる施設となっており、外壁の一部にも木材を使っていることが、県産材利用促進のPR効果が高いということで、平成28年度ふじのくに木使い建築施設表彰で優良賞を受賞しています。

鳥獣被害対策について

町域の8割が山林や原野の南伊豆町では、イノシシ



▲南伊豆認定こども園(弓なりの形状は弓ヶ浜を意識している)

県庁だより①

「静岡県の生物多様性の保全に向けた取組」

静岡県くらし・環境部環境局自然保護課

私たちの生活や産業を根底で支える生物多様性の保全に向けた取組について紹介いただきました。

生物多様性に恵まれた静岡県

地域ごとに固有の自然があり、それぞれに特有の生きものがあること、そして、生きものが食べる一食べられるといった食物連鎖などの関係でつながっていることを「生物多様性」といいます。

静岡県には日本一深い駿河湾や遠州灘などの海域から、富士山や南アルプスなどの3,000メートルを超える高山地帯まで、多様な自然環境が存在しており、多くの野生動植物が生息、生育している生物多様性に恵まれた地域です。県内で確認されたすべての野生動植物をリストアップした「静岡県野生生物目録」（平成17年発刊、18年度改訂）には、4,074種の植物と、7,363種の動物が掲載されています。（図-1）

生物多様性からのめぐみ

私たちの生活や産業は、生物多様性からもたらされる様々なめぐみによって支えられています。土壌の形成や光合成による酸素の供給などの基盤的なものをはじめ、木材、食材

等、様々な資源の供給、自然や生きもの存在による精神的、文化的な楽しみの享受などといった恩恵があります。本県で盛んな農林水産業や「パルプ・紙」、「木材・木製品」産業など、「ものづくり県静岡」も生物多様性に支えられています。

生物多様性を取り巻く課題

私たちに多くのめぐみをもたらしてくれる「生物多様性」ですが、本県の生物多様性を巡っては様々な課題があります。ニホンジカのように個体数が増えすぎて農林業や自然植生、生態系にまで被害を与えている野生鳥獣の存在、アライグマなどの外来生物の侵入・定着による在来生物の駆逐などです。生きものの種の数の減少については、とりわけ近年は絶滅の早さが加速していると言われています。

「生物多様性地域戦略」の策定

多様な自然環境を保全し、豊かな生態系を未来に継承していくためには、絶滅危惧種の保護、生息数が多すぎる生物の適正管理、すべての野生生物が生息し続けることができる環境の保全などとともに、我々人間のライフスタイルや経済活動を、人と野生生物が共存できるものに変えていくことが必

要です。

そこで、そのようなことに取り組んでいくための県全体の長期的な戦略として「生物多様性地域戦略」を策定することとしました。

まず、平成26年度から3年間かけて県内全域の野生生物の生息実態調査を実施してきました。この調査は、絶滅のおそれのある野生動植物を取りまとめた「静岡県版レッドデータブック」の基礎調査も兼ねており、レッドデータブックと「静岡県野生生物目録」の改訂に活用していきます。

レッドデータブックの改訂に当たっては、現在掲載している「植物」「哺乳類」などの7種に、新たに「クモ類」と「菌類、キノコ類」を追加します。また、国内第一級の学識者の先生方に監修を依頼するとともに、本年3月に開館した「ふじのくに地球環境史ミュージアム」とも連携し、掲載内容をより学術的なものにしていきます。



そして、県版レッドデータブックの改訂と並行し、「生物多様性地域戦略」の平成29年度中の策定を目指していきます。本県の生物多様性の将来像やその実現に向けた方策の方向性を指し示すとともに、それらを行政はもちろん、多様な主体の自発的な取組として展開していくためのガイドラインとして策定するものですので、策定過程においては、有識者で構成される策定検討委員会をはじめ、市町、自然保護活動に携わっている方々、事業者など、各方面の県民や事業者の皆様の御意見をいただきながら進めてまいります。

皆様の御協力をよろしく願います。

図-1 確認種類数一覧(平成18年9月1日現在)

分類群	在来種	外来種	種類数
植物	3,499	575	4,074
シダ植物門	446	4	450
種子植物門	3,053	571	3,624
動物	7,187	191	7,363
哺乳類	47	5	52
鳥類	390	5	395
爬虫類	16	1	17
両生類	17	17	18
淡水魚類	130	52	167
昆虫類	6,045	109	6,154
陸・淡水産貝類	182	18	200
合計	10,686	766	11,437

※種類数は亜種を含み、植物は変種及び一部の品種、雑種を含む。
淡水魚類の外来生物は、地域・流域における外来生物(15種類)を含む。したがって、合計数は種類数と一致しない。外来生物には、その疑いのあるものも含む。
【資料：静岡県野生生物目録(平成17年2月、静岡県)】

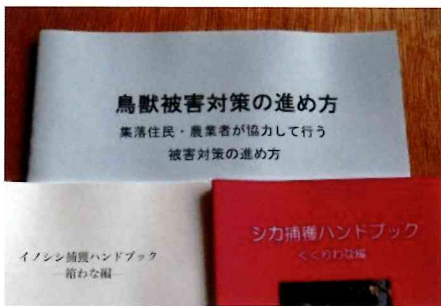
森林・林業研究センターだより No.82

鳥獣の捕獲や被害対策に関する 各種の普及啓発資料を作成しました

森林育成科 片井 祐介

野生鳥獣被害に大変困っている皆さんに研究成果や普及資料を紹介いただきました。

森林・林業研究センターでは、昨年度まで新成長戦略研究「イノシシと戦う集落づくりと森林づくりに必要なシカ管理に関する研究（平成25年度～27年度）」として、集落周辺に出没し農作物に対して大きな被害を発生させているイノシシと、個体数が増加し生態系への悪影響が懸念されているニホンジカの被害対策の研究を実施しました。その成果として「鳥獣被害対策の進め方-集落住民・農業者が協力して行う被害対策の進め方-」、「イノシシ捕獲ハンドブック-箱わな編-」および「シカ捕獲ハンドブック-くくりわな編-改訂版」を作成しましたので紹介いたします。



▲作成したハンドブック等

1 鳥獣被害対策の進め方

ー集落住民・農業者が協力して行う被害対策の進め方ー

農業被害の対策について、生息環境対策、予防対策、捕獲対策の3つの対策を並行して実施していくことで相乗的な効果が得られます。本冊子では、この3つの対策の方法について紹介しています。

現在の被害対策の問題点として、捕獲と防護柵だけが主に行われており、生息環境管理の観点はありません。

しかし、集落から餌をなくしていったり、隠れ家となる場所の撤去などを行ったりしなければ、鳥獣の出没を減らすことは困難です。そこで、まずは無意識に行っている餌付けをやめるために何が問題であるかを説明しています。また、防護柵については、現場での普及は行われていますが、設置方法などに誤りがあり、十分な効果が得られていないものもあります。そこで、基本的な柵の知識と特に扱いが難しい電気柵について詳しく紹介しています。また、捕獲に関して新しく始める人が増えているイノシシの箱わなでの捕獲について、次に紹介する捕獲ハンドブックの要点や獣肉として利用する時の注意点をまとめています。

この冊子については、農業者と集落住民が協力して行う被害対策について紹介をしていますので、実際に被害を受けている農業者以外にも幅広く知っていただきたい内容になっています。

2 イノシシ捕獲ハンドブック

ー箱わな編ー

イノシシの箱わなでの捕獲は、銃などに比べ取り組みやすいことから、被害を受けている農業者でも新しく始める人が増えてきています。しかし、捕獲を始めてみると幼獣は捕獲できるが、成獣は捕獲できないとの問題に直面することがあります。

そこで、このハンドブックでは、箱わなを使い始めたばかりの方を対象に成獣を捕獲するための箱わなの設定や捕獲したイノシシのとめ刺し

を簡単に行う方法について記載しています。

3 シカ捕獲ハンドブック

ーくくりわな編ー（改訂版）

ニホンジカについては、生態系への影響が大きいことから農地周辺だけでなく、全体の生息数を抑制していく必要があります。そのための捕獲方法として広く使われている「くくりわな」について、その利用方法と当センターで開発をした新しい種類のくくりわなの紹介をしています。

シカ捕獲ハンドブックは、2013年に初版を作成しましたが、その後の法改正や新しい研究成果を加えて2016年3月改訂版を作成しました。

新しく追加されたくくりわなとして、首用くくりわなを紹介しています。この首用のくくりわなは従来の足くくりわなで問題となっていた設置に関するハードルを下げると共に、ツキノワグマの錯誤捕獲が起こりにくい構造となっています。

4 その他資料の活用



▲各種の啓発資料

以上紹介した3冊以外にも「ミカン園における獣害対策」「茶園における掘り起しの現状と対策」「わかりやすい森林・林業シリーズ No23」など、研究成果についてはわかりやすく公表するように努めています。

これらの資料は、各地で開催されている講習会で配布しています。また森林・林業研究センターのホームページ (<http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-850>) からダウンロード可能です。ダウンロードした資料については、配布や他の刊行物への転載も自由に行っていただいてもかまいませんので、ご活用下さい。

28年度の治山・林道等の優秀工事が決まりました

山林協会では、森林の持つ多面的な機能が適切に発揮されるよう、治山・林道・森林整備工事のうち、施工の優れた工事や木材を積極的に工夫して使用した施工者を顕彰し、森林土木技術者の育成と施工者の技術向上を図る「治山・林道等コンクール」を毎年実施しています。

今年度も各農林事務所から優れた工事について推薦をいただき、審査の結果下記の工事に対し山林協会長賞を授与することとし、11月7日（月）に表彰式を執り行いました。

表彰された工事現場はいずれも急峻な地形など条件が悪い場所で、作業員の安全確保に十分配慮しながら、高い技術力を発揮された工事であり、工事関係者の皆様の日頃のご努力の成果が表れていることが高く評価されました。

No.	受賞者	施工地	工事名
1	株式会社 丸協組	賀茂郡西伊豆町宇久須	27 治山(予防)磯嵐工事
2	株式会社 室伏組	駿東郡小山町柳島	27 治山(復旧)峯坂工事
3	株式会社 ヤマエイ長島建設	静岡市葵区井川	27 治山(緊急)閑蔵(26 繰越)工事
4	北川工業 株式会社	静岡市葵区大原	26 治山(復旧)森(25 ゼロ債)工事
5	株式会社 柳澤組	榛原郡川根本町崎平	27 治山(復旧)ヒラト工事
6	株式会社 若杉工務店	掛川市入山瀬	27 県単治山(県営)入山瀬工事
7	天龍土建工業 株式会社	天竜区龍山村瀬尻	26 治山(緊急地すべり)下里1工事
8	株式会社 アキヤマ	天竜区龍山村瀬尻	26 治山(緊急地すべり)下里2工事
9	エフ・正光建設 株式会社	天竜区水窪町奥領家	26 治山(復旧)イドボラ(25 ゼロ債)工事
10	株式会社 神谷土木	天竜区龍山村戸倉	27 治山(水源再生)宮ノ平工事
11	株式会社 西村組	浜松市天竜区春野町田河内	27 治山(予防)向沢工事
12	株式会社 マルブンプロテクト	袋井市湊	27 治山(防災林造成)湊工事
13	花菱建設 株式会社	賀茂郡西伊豆町一色	26 山村道路網整備堀坂線(26 ゼロ債)工事
14	東静建設 株式会社	駿東郡小山町竹之下	27 山村道路網整備金時線工事
15	株式会社 カネ芳白鳥土建	静岡市葵区門屋	26 道整備交付金俵峰門屋線1工区工事
16	株式会社 柳澤組	榛原郡川根本町東藤川	27 道整備交付金智者山線2工区(26 繰越)工事
17	株式会社 天竜アキヤマ	天竜区春野町豊岡	26 道整備交付金大久保線3工区工事
18	森吉組 株式会社	天竜区春野町花鳥	26 ふれあい林道整備大尾大日山線2工区工事
19	富士森林組合	富士宮市猪之頭	27 治山(水源再生)猪之頭2工事

このうち特に優れた「27 治山(復旧)ヒラト工事」(株式会社柳澤組)、「27 治山(防災林造成)湊工事」(株式会社 マルブンプロテクト)及び「26 山村道路網整備堀坂線(26 ゼロ債)工事」(花菱建設株式会社)の3件を、一般社団法人日本治山治水協会・日本林道協会が主催する治山林道コンクールへ推薦したところ、株式会社柳澤組様と花菱建設株式会社様が林野庁長官賞を、また株式会社マルブンプロテクト様が日本治山治水協会長賞を受賞されました。

◎治山工事部門

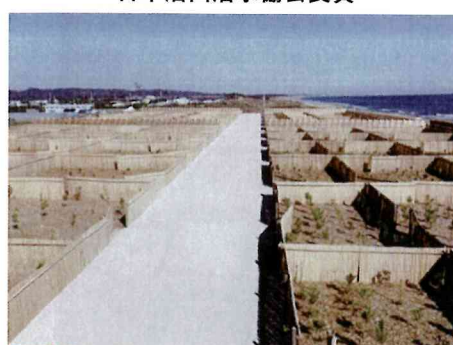
林野庁長官賞



株式会社 柳澤組
No.5 ヒラト

◎治山木材使用工事部門

日本治山治水協会長賞



株式会社 マルブンプロテクト
No.12 湊

◎林道工事部門

林野庁長官賞



花菱建設 株式会社
No.13 堀坂線

★受賞者の皆さん (前出の3社を除く。)

◎治山工事



(株)丸協組
No. 1 磯嵐



(株)室伏組
No. 2 峯坂



(株)ヤマエイ長島建設
No. 3 閑蔵



北川工業(株)
No. 4 森



(株)若杉工務店
No. 6 入山瀬



天龍土建工業(株)
No. 7 下里1



(株)アキヤマ
No. 8 下里2



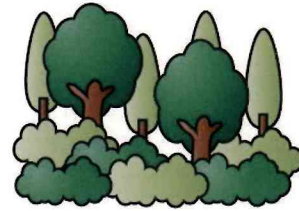
エフ・正光建設(株)
No. 9 イドボラ



(株)神谷土木
No. 10 宮ノ平



(株)西村組
No. 11 向沢



◎林道工事



東静建設(株)
No. 14 金時線



か芳白鳥土建(株)
No. 15 俵峰門屋線



(株)柳澤組
No. 16 智者山線



(株)天竜アキヤマ
No. 17 大久保線



森吉組(株)
No. 18 大尾大日山線

◎森林整備工事



富士森林組合
No. 19 猪之頭

表彰式皆様受賞おめでとうございます

